

令和5年度 第1回

進路説明会資料

令和5年6月13日(火)

連雀学園三鷹市立第一中学校

進路指導部

3年 組 番 氏名

目 次

1 進路関係年間予定表	P. 2
2 入試日程		
1. 都立高校	P. 3
2. 都立産業技術高等専門学校	P. 5
3. 私立入試	P. 6
4. 私立高校と都立高校の日程	P. 7
3 卒業後の進路選択		
1. 中学校を卒業する意味	P. 8
2. 保護者の方へ		
4 中学校卒業後の進路選択		
1. 中学校卒業後の進路系統図	P. 9
2. 令和4年度卒業生進学先一覧	P. 10
3. 就職について	p. 11
4. 進学について		
1. 高等学校について	p. 12
2. 高等専門学校について	p. 14
3. 専修学校・各種学校について	p. 14
5 高等学校の入試制度について		
1. 入試の基本的な流れ	p. 15
2. 都立高校	p. 15
3. 私立高校	p. 18
6 奨学金制度について	p. 20
7 進路決定に向けてのポイント		
1. 自分にとっての良い学校	p. 20
2. 学校選びのポイント	p. 20
3. 進路決定への主な流れ	p. 22
4. 学習の進め方	p. 24
5. まとめ・確認・その他	p. 24
6. 推薦受験(検)資格の認定について	p. 26
10 参考資料 入試でよく使う用語	p. 27

1 進路関係年間予定表 ※日程は、多少変わることもあります。

期	月	学校行事	進路関係	留意点
1 学期	4 月	全国学力調査 (18)	◇生徒向けに進路計画の説明	1年間の動きを把握し、進路決定に向けての計画を立てる。
	5 月	中間考査 (26) 体育大会 (20)	☆体験入学、説明会等の申し込み開始	自分の興味関心や適性を考慮して高校を選び、実際に訪問する。 説明会等は人数制限があるので、早めに日程を確認し、予約を取ることをお勧めします。 ※各種検定を取得しておく、私立推薦や併願優遇を考える際に役に立つ。
	6 月	期末考査 (21~23) 第1回到達度テスト (26)	●第1回進路説明会 (13) ○第1回進路希望調査	
	7 月	終業式 (20) 三者面談 (21~31)	●高校の先生による出前授業 (14) ☆体験入学、説明会に参加 ◇1, 2年の内容の復習、定着	
2 学期	8 月	始業式 (25) 第2回到達度テスト (30)	○第2回進路希望調査	
	9 月	修学旅行 (13~15) 中間考査(28・29)	☆高校の文化祭等に参加	
	10 月	合唱コンクール (16) 第3回到達度テスト (20) 三者面談 (30~11/7)	●第2回進路説明会 (26) ○第3回進路希望調査 ◇面接、集団討論対策の開始	
	11 月	三者面談 (~7) 期末考査 (14~16) スピーキングテスト (26)	○第4回進路希望調査 (最終) →私立推薦、併願優遇希望の最終確認 →都立推薦希望の最終確認	
	12 月	三者面談 (4~11) 入試相談 (15~) スピーキングテスト予備日(17) 終業式 (25)	☆ハローワーク求人発表 ☆私立高校の願書入手 ☆都立高校出願登録始	
3 学期	1 月	始業式 (9) 授業公開 (18~20)	☆就職者統一選考 ☆受験 (検) 校の出願登録 ★私立推薦入試 (22日頃) ★都立推薦入試 (26日) ※東京都以外の都道府県立高校および、国立・私立帰国子女枠等は日程が異なります。	※私立・都立校選択の確認。 ※入試相談の関係上、私立高校の推薦、併願優遇を希望する場合は、12月の面談で最終決定となる。推薦希望者は早めに先生に相談する。 ※受験校の必要書類をそろえ、手続きの準備をする。 ※受験のためのコミュニケーション力やマナーを身につける。
	2 月	学年末考査 (27・28)	★私立一般受験 (10日~) ★都立分割前期・一次学力検査 (21日)	※学習の総まとめ・総仕上げ ※体調管理、朝型の生活習慣を身につける。 ※出願・入試・発表の日程の確認
	3 月	巣立ちの会 (5) 球技大会 (6) 卒業式 (19)	★都立分割後期・二次学力検査 (9日頃)	※進路先決定 ※新しい生活への準備

※都立の日程についてはまだ未定です。日程は1学期中に、都立の入試要項は9月後半に発表されます。

○若干の手直しがあることを了承してください。

○4月の保護者会で年間の計画、6月の進路説明会で2学期以降の進路の動き、流れを説明・確認します。

○9月の都立入試の要項発表を受け、10月の進路説明会で都立入試についてと10月中旬以降の流れを再確認します。

2 入試日程

別紙

令和6年度東京都立高等学校入学者選抜の日程について

1 推薦に基づく選抜

	令和6年度入学者選抜	【参考】令和5年度入学者選抜
出願受付期間	令和6年1月12日(金)～18日(木)	令和5年1月12日(木)～18日(水)
実施日	令和6年1月26日(金)・27日(土)	令和5年1月26日(木)・27日(金)
合格発表日	令和6年2月2日(金)	令和5年2月2日(木)

(注1) 都立国際高校における国際バカロレアコースの入学者選抜についても上記日程で実施する。ただし、入学願書は学校へ持参することとし、出願受付期間は1月23日(火)及び24日(水)とする。

(注2) インターネットを活用した出願に係る出願受付期間等については、別途定める。以下、学力検査に基づく選抜のうち、第一次募集及び分割前期募集及び海外帰国生徒対象の選抜についても同様とする。

2 学力検査に基づく選抜

(1) 第一次募集及び分割前期募集(注3)

	令和6年度入学者選抜	【参考】令和5年度入学者選抜
出願受付期間	令和6年1月31日(水)～2月6日(火)	令和5年2月1日(水)～2月7日(火)
実施日	令和6年2月21日(水)	令和5年2月21日(火)
合格発表日	令和6年3月1日(金)	令和5年3月1日(水)

(2) 分割後期募集及び全日制第二次募集(注3、4、5) ※入学願書は窓口への持参により受付

	令和6年度入学者選抜	【参考】令和5年度入学者選抜
出願受付日	令和6年3月6日(水)	令和5年3月6日(月)
実施日	令和6年3月9日(土)	令和5年3月9日(木)
合格発表日	令和6年3月14日(木)	令和5年3月15日(水)

(3) 定時制第二次募集(注4) ※入学願書は窓口への持参により受付

	令和6年度入学者選抜	【参考】令和5年度入学者選抜
出願受付日	令和6年3月21日(木)	令和5年3月22日(水)
実施日	令和6年3月26日(火)	令和5年3月27日(月)
合格発表日	令和6年3月27日(水)	令和5年3月28日(火)

(注3) 分割募集：定員を前期と後期に分割し、2回に分けて行う募集

(注4) 第二次募集：第一次募集で欠員のある学校が行う欠員補充の募集

(注5) インフルエンザ等学校感染症罹患患者等に対する追検査は、(2) 分割後期募集及び全日制第二次募集の日程で実施する。

(4) 海外帰国生徒対象の選抜

	令和6年度入学者選抜	【参考】令和5年度入学者選抜
出願受付日	令和6年2月 6日(火)・7日(水)	令和5年2月 6日(月)・7日(火)
実施日	令和6年2月15日(木)	令和5年2月15日(水)
合格発表日	令和6年2月19日(月)	令和5年2月17日(金)

(5) 在京外国人生徒対象の選抜 ※入学願書は窓口への持参により受付

①竹台高校、田柄高校、南葛飾高校、府中西高校、飛鳥高校、六郷工科高校、杉並総合高校

	令和6年度入学者選抜	【参考】令和5年度入学者選抜
出願受付日	令和6年1月23日(火)・24日(水)	令和5年1月23日(月)・24日(火)
実施日	令和6年1月26日(金)	令和5年1月26日(木)
合格発表日	令和6年2月 2日(金)	令和5年2月 2日(木)

②国際高校

	令和6年度入学者選抜	【参考】令和5年度入学者選抜
出願受付日	令和6年2月 8日(木)・9日(金)	令和5年2月 8日(水)・9日(木)
実施日	令和6年2月15日(木)	令和5年2月15日(水)
合格発表日	令和6年2月19日(月)	令和5年2月17日(金)

【参考】 東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針

- 1 中学校の教育課程に基づく学習の成果としての学力を検査することを基本とし、出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容によるものとする。
- 2 出題の内容は、各教科とも、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして基本的な事項を選ぶとともに、一部の領域に偏ることのないようにする。
- 3 出題に当たっては、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や、思考力、判断力、表現力などをみるとともに、体験的な学習や問題解決的な学習などの成果もみることができるようにする。

東京都立産業技術高等専門学校

令和6年度 入学者選抜の日程について

東京都立産業技術高等専門学校では、令和6年度入学者選抜の日程を、以下のとおり決定しました。

なお、入学者選抜の詳細は、本年9月に策定予定の「令和6年度東京都立産業技術高等専門学校入学者選抜実施要綱」においてお知らせします。

1 推薦に基づく選抜

	令和6年度入学者選抜	【参考】令和5年度入学者選抜
入学願書受付日	令和6年1月12日（金曜日） から1月18日（木曜日）まで	令和5年1月12日（木曜日） から1月18日（水曜日）まで
検査実施日	令和6年1月26日（金曜日）	令和5年1月27日（金曜日）
合格発表日	令和6年2月 2日（金曜日）	令和5年2月 2日（木曜日）

2 学力検査に基づく選抜

○第一次募集

	令和6年度入学者選抜	【参考】令和5年度入学者選抜
入学願書受付日	令和6年1月31日（水曜日） から2月6日（火曜日）まで	令和5年2月1日（水曜日） から2月7日（火曜日）まで
検査実施日	令和6年2月15日（木曜日）	令和5年2月15日（水曜日）
合格発表日	令和6年2月20日（火曜日）	令和5年2月20日（月曜日）

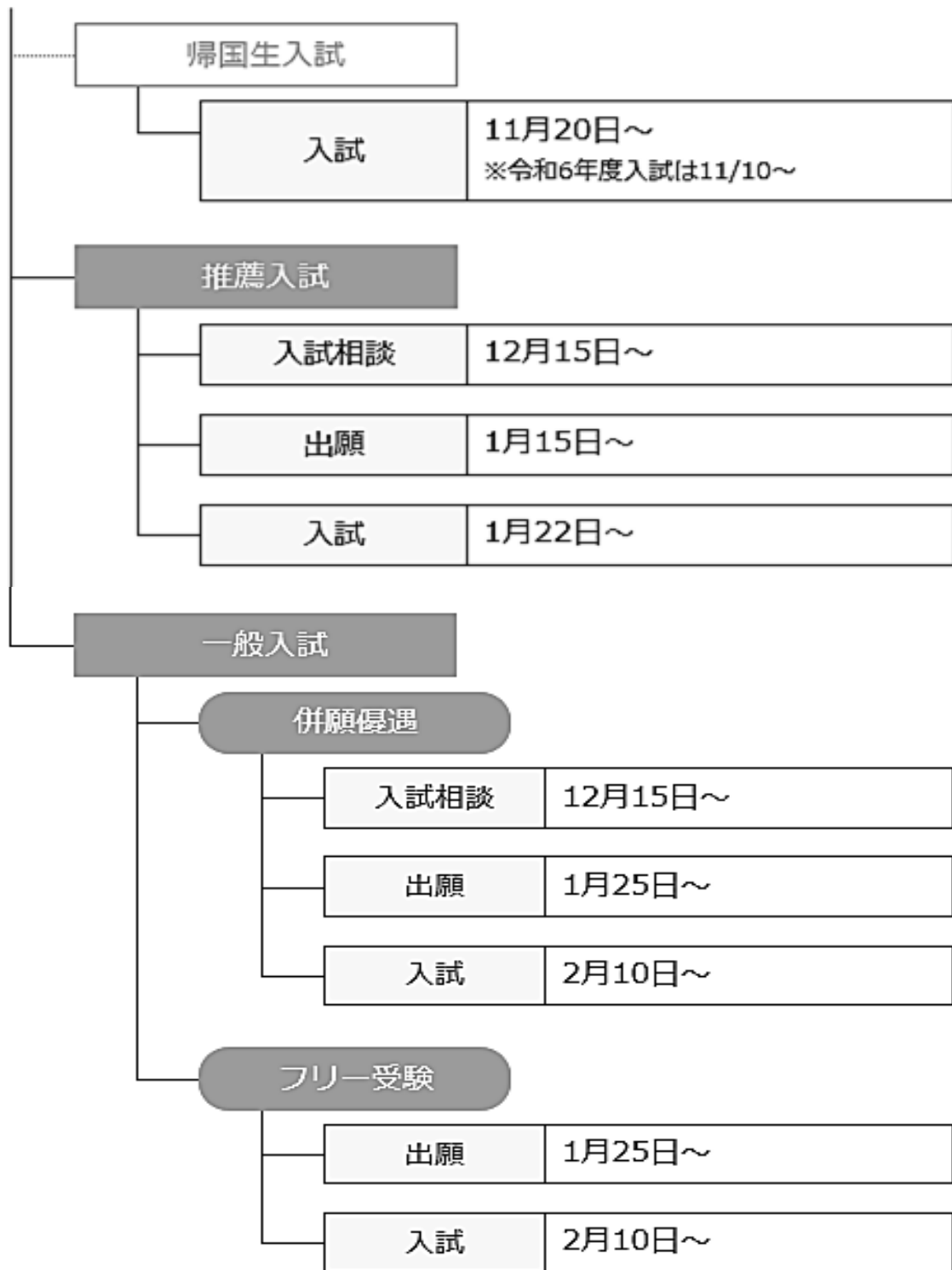
■検査実施日・合格発表日は都立高等学校と別日程です。

■第一次募集で欠員が生じた場合は、第二次募集を実施します。

《問合せ先》

東京都立産業技術高等専門学校 高専品川キャンパス
電話 03-3471-6331

私立高校入試



私立高校と都立高校の入試日程の順番

私立高校

都立高校

12月

12月15日～ 入試相談

1月

1月15日～ 推薦入試出願

1月22日～ 推薦入試

推薦入試合格発表

1月25日～ 一般入試出願

1月26・27日 推薦入試

1月末前後 推薦入試合格発表

2月

1月下旬～2月初旬 第一次募集・分割前期募集 出願

2月10日～ 一般入試

一般入試合格発表

2月21日 第一次募集・分割前期募集 選抜

～3月末 第二次募集開始

3月

3月初旬 第一次募集・分割前期募集 合格発表

3月初旬 第二次募集・分割後期募集 出願

3月中旬 第二次募集・分割後期募集 選抜

3 卒業後の進路選択

1. 中学校を卒業する意味

中学校までは、教育を受けることは、みなさんの権利であり、同時に保護者の方の義務でもありました。しかし、卒業後に教育を受けることは、“契約”です。契約とは、お互いの自由意思に基づいて交わす約束という意味です。未来の日々は、権利でも義務でもなく、契約を交わす両者の意思によって決まります。

そのため、中学校卒業後の進路決定には、自分の意思をきちんともつことがなによりも大切です。遠い将来の自分を想像することは、楽しくわくわくします。しかし、期待する自分自身を現実のものにしていくためには、期待し思うだけでは不十分です。相手との契約を成立させてはじめて実現します。ですから、自分としっかり向き合い、自分を知り、自分の力を高める努力をしていかなければなりません。そして、自分の人生を選択し、決定していかなければなりません。それは、人生の難しい関門であり、一人の人間として大きく成長するチャンスでもあります。しっかり立ち向かってください。そして、3月には、みなさん一人一人が、自分の意思でしっかりと契約を交わして、希望に胸をふくらませてそれぞれの進路先へと巣立つことを願っています。

2. 保護者の方へ

(1)本人に行動させる。過度の手出し口出しは慎む。

これから契約社会に踏み出して、契約を成立させ自分の人生を生きていくのは、お子さん自身です。一人の個人としてお子さんを尊重し、未熟ながらも迷い戸惑い、でも前進しようともがいているお子さんを見守ってあげてください。人生の教官として適切なタイミングで冷静なアドバイスをしていただきたいと思います。現在の学力はもちろんですが、本人の性格や行動、興味、関心なども考えて、選択していけるように導いてあげてください。

(2)身勝手な行動には、迷わずブレーキを踏む。

個人として尊重するという姿勢は大切なことですが、お子さんはまだまだ未熟な未成年です。本人もプレッシャーに負けて、「いけない」と思っている、つい“気が緩み、楽な方に流されたり、手を抜いてしまったり”するかもしれません。その時には、本気で叱ってあげてください。迷わずブレーキを踏んでお子さんを守り、その方向を修正してあげるのも、保護者としての大切な役目だと考えます。

(3)親子の相互信頼が、納得のいく進路へと導く。

本人の意志を尊重し、信頼を寄せてあげることが大切だと思います。相互信頼を基盤として本人と保護者の合意ができるまで十分話し合って、最終的な決定をしてください。

(4)温かい家庭の“灯”をお子さんに。

生徒にとって学習は生活の中の大きな一部分です。学校から帰ったお子さんがほっと心を安め、勉強の疲れや受験の心配を癒すことができるのは、温かい家庭の“灯”です。受験生だからといって特別扱いして過干渉・不干渉にするのではなく、家庭の役割もきちんと与えつつも、家庭がお子さんにとっての安心できる心地よい居場所になるように、心がけてあげてください。

(5)情報ばかり見て、『我が子を見ず』にならない。

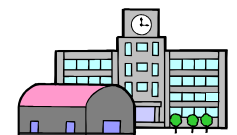
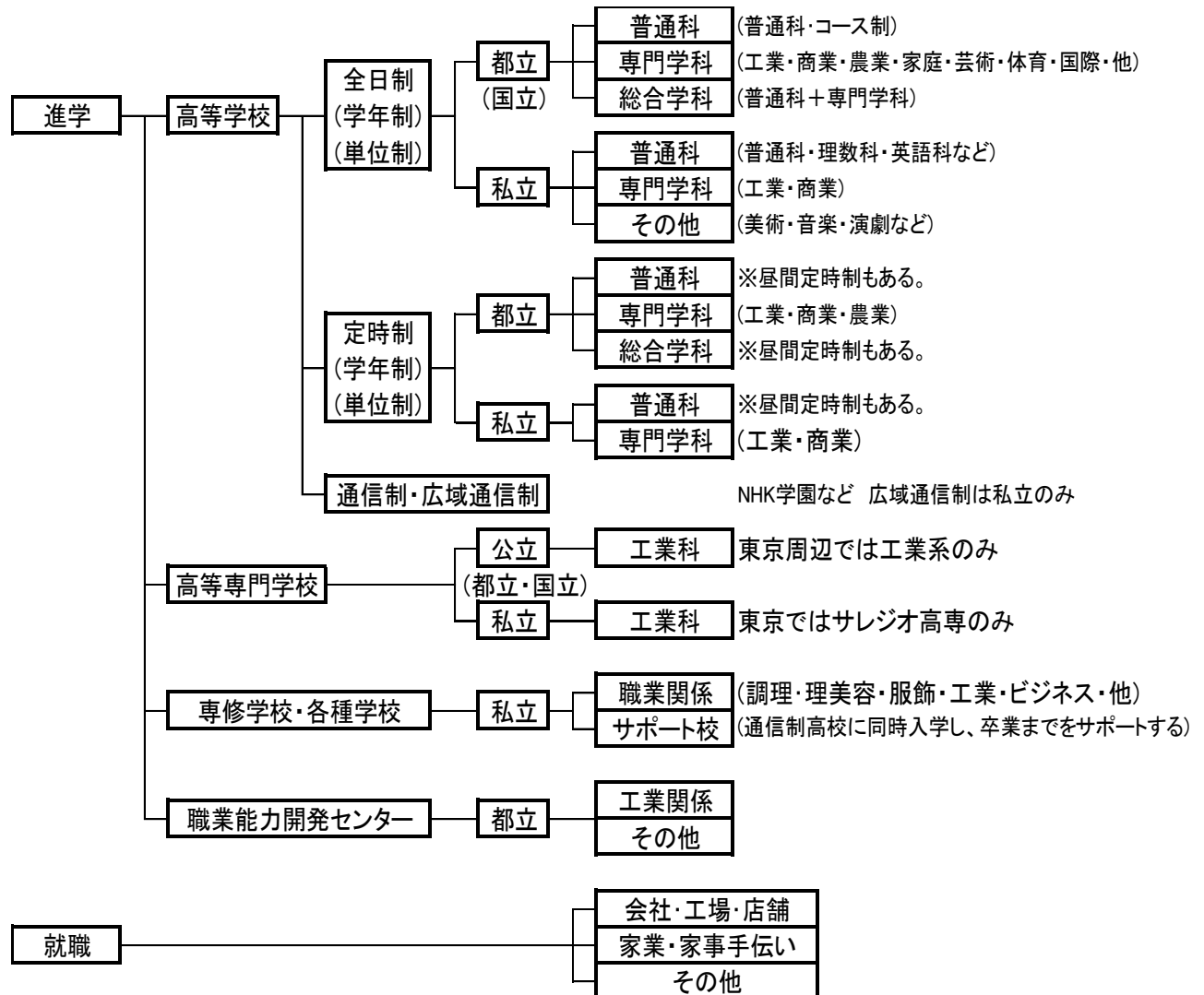
特に2学期以降の「受験期」は、本人も家庭も過敏になりがちです。そんな時こそ、ご自分のお子さんが、何を考え悩み苦しんでいるのかを理解してあげてください。不確かな情報に左右されたり、根拠のない噂を信じて、それを無意識のうちに広めたり、無用な動揺を起こすことは、皆で慎みたいものです。また、一人一人の生徒は、精一杯努力した上で、教育方針や校風を調べ最も自分にふさわしいと思える学校を選びます。高校に対する無責任な批評は、厳に避けてください。

4 中学校卒業後の進路選択

中学校卒業後の進路は、大きく分けて進学と就職になります。ここでは進学を中心に説明します。就職を希望する場合は、原則として職業安定所を通して進めていきますので、担任にご相談下さい。

進学と言っても、下図のようにさまざまな選択肢があります。それぞれの特色などをよく調べ、自分に合った進路を選択することが大切です。

1 進路先系統図



2 令和4年度卒業生 進学先一覧

連雀学園三鷹市立第一中学校

令和4年度 卒業生進学先一覧

令和5年3月31日現在

公立 (都立・他県 高等学校等)	男	女	計
都立赤羽北桜高等学校		2	2
都立井草高等学校	3	2	5
都立園芸高等学校	1		1
都立大泉校		1	1
都立大山高等学校	1		1
都立荻窪高等学校		2	2
都立国立高等学校		3	3
都立国分寺高等学校	2		2
都立小金井北高等学校	3	6	9
都立小平南高等学校		1	1
都立狛江高等学校		1	1
都立駒場高等学校 (普通)		2	2
都立鷺宮高等学校		1	1
都立石神井高等学校	2	2	4
都立新宿高等学校		1	1
都立新宿山吹高等学校		1	1
都立神代高等学校	2	2	4
都立杉並高等学校	3	2	5
都立杉並工業高等学校	1		1
都立杉並総合高等学校	3	1	4
都立砂川高等学校	1		1
都立世田谷泉高等学校	1	5	6
都立総合芸術高等学校 (音楽)	1		1
都立総合工科高等学校	4		4
都立第五商業高等学校		1	1
都立田柄高等学校	1	1	2
都立立川高等学校 (普通)	3	2	5
都立多摩科学技術高等学校	4		4
都立千歳丘高等学校		3	3
都立調布北高等学校	4	1	5
都立調布南高等学校	2		2
都立戸山高等学校	1		1
都立豊多摩高等学校	5	2	7
都立西高等学校	6	2	8
都立練馬工業高等学校	1		1
都立農業高等学校	1	1	2
都立農芸高等学校	3		3
都立光丘高等学校	1		1
都立日比谷高等学校	3		3
都立東村山高等学校		2	2
都立府中高等学校		1	1
都立府中東高等学校	1	1	2
都立保谷高等学校	2	1	3
都立稔が丘高等学校	1		1
都立武蔵野北高等学校	5	5	10
都立芦花高等学校	1		1
都立若葉総合高等学校		1	1

48

	男	女	計
釧路工業高等専門学校	1		1
国際製菓専門学校		1	1
武蔵野東高等専修学校		1	1

3

私立 (高等学校・高等専門学校)	男	女	計
神山まると高等専門学校	1		1
関東国際高等学校	1	1	2
暁星国際高等学校	1		1
錦城高等学校	3	5	8
近畿大学泉州高等学校	1		1
国立音大付属高等学校	2	1	3
國學院高等学校	1	1	2
國學院久我山高等学校	2		2
国際基督教大学高等学校		1	1
駒場学園高等学校		1	1
実践学園高等学校	3	1	4
芝国際高等学校		1	1
下北沢成徳高等学校		1	1
自由が丘学園		1	1
十文字高等学校		3	3
聖徳学園高等学校	3	3	6
昭和第一学園高等学校	1		1
杉並学院高等学校	4	6	10
成蹊高等学校	1		1
専修大学附属高等学校	1	1	2
大成高等学校	5	3	8
大東学園高等学校	1		1
拓殖大学第一高等学校	1	1	2
立川女子高等学校		2	2
玉川学園高等学校	1		1
中央大学杉並高等学校	1		1
帝京大学高等学校		1	1
東海大学菅生高等学校	2	1	3
東海大学諏訪高等学校	1		1
東京女子学院高等学校		1	1
東京電機大学高等学校	1		1
東京立正高等学校	2	2	4
桐朋高等学校	1		1
東洋高等学校	1		1
トキワ松高等学校		1	1
二松学舎高等学校	1		1
日本学園高等学校	1		1
日本大学櫻丘高等学校	3	1	4
日本大学第二高等学校	1	1	2
日本大学鶴ヶ丘高等学校	1	1	2
八王子学園八王子高等学校	1		1
藤村女子高等学校		2	2
文化学園大学杉並高等学校	3	1	4
宝仙高等学校		1	1
堀越高等学校	1		1
松商学園高等学校	1		1
明星学園高等学校	1	1	2
武蔵野大学高等学校	4	2	6
武蔵野大学千代田高等学校	1		1
早稲田大学本庄高等学院	1		1
<通信制>			0
NHK学園	3	1	4
N高等学校	3	1	4
飛鳥未来高等学校	1	2	3
おおぞら高校		1	1
クラーク国際高等学校	1	1	2
晃陽学園高等学校		2	2
中央高等学院		1	1
渡辺高等学院		1	1

58

3 就職について

進学する人より一足先に社会へ出て、仕事を習い技能を磨き、実力ある職業人になるよう努めましょう。仕事に生き甲斐を見出すことにより、人生に張りができ自立もできます。そんな職業を選ぶために最も大切なことは、各自の個性に合う職業を選ぶことです。

(1) 就職

◎自分の個性に合う職業を選ぶには

・自己分析

誰にも得意・不得意や、能力の違いというものはあります。自分の体力の器用さ、興味・関心や性格・能力など自分をよく知ることが大切です。

・環境や家庭の事情

それぞれの家庭の事情や環境条件を考えることも大切なことです。家庭での自分の立場をよく考え、自分を取り巻く環境を知ることが必要です。家の人たちと十分相談をしましょう。

・職業分析

将来自分が就こうと思う職業について、関心や夢を持っていることと思います。それを含めて、希望職種について調べることが大切です。

ポイントは

(ア) 仕事内容	(イ) 資格や条件	(ウ) 仕事への適性
(エ) 労働条件 (賃金や勤務時間)	(オ) 働きながら学ぶ方法	(カ) 将来の見通し

などです。また、実際に仕事に携わっている人たちの意見を聞くことも大切です。

◎就職するまでの手順

中学校を卒業して就職する方法は、大きく分けて二つあります。

1つは縁故による就職、もう1つはハローワーク(職業安定所)を経由して決める方法です。

・縁故就職…家業を継ぐ場合は別として、保護者の知人などの紹介によるものです。本人はある程度緊張せずに働くことができるという利点がありますが、下に示すような条件をはっきり決めておかないと、あとで問題が起きたときに困ります。あらかじめはっきり決めておきましょう。

- | |
|---------------------------------|
| ①仕事内容 |
| ②就業時間、休憩時間、休日、休暇、作業着の支給状況、残業の有無 |
| ③賃金(金額・支給方法)、諸手当、昇給の状況、交通費の支給 |
| ④福利厚生、社会保険への加入状況(労働災害時の補償の確認) |
| ⑤定時制高校への通学可否 |
| など |

・ハローワークを経由する

- 1 0月…… ハローワークによる中卒求人一覧表作成。希望者に職業適性検査の実施。
- 1 2月上旬… 応募書類の作成、提出
- 1月…… 都立職業能力開発センター(令和6年4月入校生)募集期間(1/9~1/31)
- 2月…… 都立職業能力開発センター(令和6年4月入校生)選考日(2/14・15・16)
※いずれか1日
- 都立職業能力開発センター(令和6年4月入校生)合格発表(2/26)
- 3月…… 進路変更生徒への就職相談・指導

(2) 企業内学校

その企業に必要な知識や技能を学び、卒業後はその企業の中堅技術者として採用されます。科学技術学園高等学校と技能連携して、3年間で高卒資格を取得します。

日野工業高等学園… 日野自動車工業の企業内学校（昨年度は募集あり）
〒191-8660 日野市日野台3-1-1 TEL042-586-5053
最寄り駅 JR中央線日野駅からバス5分
※手当が支給されます。卒業後は日野自動車で働きます
※選考は、筆記試験（国語、数学、英語）、作文、面接、健康診断

(3) 都立職業能力開発センター（旧都立技術専門学校）

社会が要求する技術を身につけて、就職しようとするもののために設けられた公的機関。修業年限は1年間で、通学定期・学割が適用されます。入校は、かなり難しいと考えてください。詳細については、担当者に相談してください。

推薦入校（中学卒業見込み生徒向け 推薦入校選考Ⅱ）募集については未定

一般（令和6年度4月入校生）募集期間…令和6年1月9日～令和6年1月31日

※一般の枠は、面接と、簡単な筆記試験又は学力検査を行います。筆記試験は、国語・数学とも義務教育修了程度の内容になっています。また、学力検査は、国語・数学とも高等学校卒業程度の内容で、高校1年までの範囲が出題されるので、非常に難しくなっています。

※問い合わせ：東京都産業労働局 雇用就業部 能力開発課 技能振興係 電話：03-5320-4715

4 進学について～進路先の種類と内容～

1. 高等学校

(1) 課程

- ① 全日制：中学校と同様、午前・午後と授業が組まれます。修業年限は3年です。
- ② 定時制：夜間又は、昼間の限られた時間に授業が行われます。修業年限は原則4年。3年で卒業できる場合もあります。新たなタイプの昼夜間定時制高校では、午前・午後・夜間に授業が行われます。
- ③ 通信制：自宅等で学習しレポートなどを提出します。ラジオ・テレビ・インターネットを利用するものもあります。多くの学校ではスクーリング（登校日）も設けています。最近ではほぼ毎日登校するタイプもあり、**生徒の希望で選択できる学校が多くなっています。**

(2) 学年制と単位制

- ① 学年制：中学校と同じく、学年ごとに学習する教科・科目が決まっています。1年ごとに必要単位を修得すると進級できます。修業年限は、全日制は3年、定時制は4年です。
- ② 単位制：3～4年(定時制)の間に決められた単位を修得すると卒業できます。基本的に学年はなく自分で必要な教科(単位)を選んで学習します。

(3) 国立・都立・私立

- ① 国立：都内にある国立の高校は、すべて大学の付属で、本来、大学の研究校として設置されたものです。一般的に入試が非常に難しく、また大学受験に主眼を置いている所も多いです。なお、付属といっても、大学入学の特典はまったくありません。東京都には、次の6校があります。

筑波大学附属駒場高等学校（男子）	筑波大学附属高等学校（男女）
東京学芸大学教育学部附属高等学校（男女）	お茶の水女子大学附属高等学校（女子）
東京工業大学工学部附属工業高等学校（男女）	東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校（男女）

- ② 都立：学区はなく、通学可能であれば、どこでも受検できます。現在、非常に多様化が進んでおり、さまざまなシステムや学科があります。特色としては経費が安く、一般的に私立より校則が穏やかで、生徒の自主性に任せるところが多いですが、学校によって生活指導の力の入れ方は異なります。
- ③ 私立：学区はなく、原則、どこでも受検できます。東京以外の学校も受検できます。国・公立より経費が高く、各学校によって教育方針や教育内容に様々な特色があります。また、一般的に都立より校則が厳しいところが多いようです。受験に当たっては、各学校の特色をよく調べる事が大切です。特色として主な項目をあげると次のようなものがあります。

<input type="checkbox"/> 宗教教育	<input type="checkbox"/> 中高一貫教育	<input type="checkbox"/> 大学附属	<input type="checkbox"/> 男女別学	<input type="checkbox"/> 部活動
<input type="checkbox"/> 特色ある行事や教育方針	<input type="checkbox"/> 充実した設備			

※大学付属：都内には私立大学も多く、たくさんの付属校があります。付属校から大学への進学はおおむね、次のようになっています。

<ul style="list-style-type: none"> ● 原則として、全員が大学に進学できる。 ● 在学中の成績がある基準以上の者だけが推薦される。 ● 付属校専用の試験によって、一定の成績を上げた者が、入学を許可される。 ● 一般の受験生と同じように受験するが、いくらか優遇される。 ● 大学の学部の選択は、成績上位者は第1希望で入学できるが、あとは第2・第3希望になることが多い。

※大学付属校を選ぶ時には、その大学に進学することを考えて、自分の学びたい学部や学科があるかなど、大学の特色も調べておく必要があります。最近は他大学への進学にも力を入れている学校が多く見られます。

④ 経費について

- 授業料の負担軽減 ※資料「私立高校には学費負担を軽減する制度があります」をご参照ください
- 都立高校・都内私立高校の初年度経費 ※授業料の一部は就学支援金として国から支給（所得制限あり）

都立高校（全日制）		都内私立高校（平均額）	
入学料	5,650円	入学金	254,277円
授業料	118,800円	授業料	474,897円
積立金	約77,200円	施設費	37,067円
生徒会費	約5,000円	その他	179,280円
PTA会費	約4,500円		
教科書・副教材	約35,000円		
制服等	約40,000円		
体操着・シューズ等	約30,000円		
合計	約320,000円	合計	945,522円

(4) 学科

都立高校には、普通科(コース制)、専門学科(農業・工業・商業など)、総合学科など多くの学科が設置されています。普通科の中には進学指導重点校やチャレンジスクール、エンカレッジスクールといった特色のある教育活動を行う学校もあります。それぞれの特色は、「東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ」に詳しく紹介されています。

私立高校にも普通科の他にも工業科、商業科、英語科、理数科などの学科や、特進コース、福祉コースなどのコースを設けている学校もあります。

2. 高等専門学校(高専)

将来、産業界で活躍する技術者を育成するためにつくられた5年制の学校です。高校と短大をあわせたような特性をもち、高等学校の専門学科よりも高度な専門的知識と技術を学びます。卒業後は、短大卒業程度として中堅技術者として企業に就職する人が多くいますが、大学3年生に編入する人や科学技術大学のような上級学校に進学する人もいます。専門的な学習をすると同時に、修業年限が5年と長いので、興味・関心や適性を考えて選択することが必要です。都立の高等専門学校は、都立高校より先に入試があるので、**両方に出願できますが、都立の高等専門学校に合格した場合、都立高校は受検できません。**

- ◆ 東京都公立大学法人 東京都立産業技術高等専門学校
 - ・品川キャンパス…機械システム工学コース・生産システム工学コース・電気電子工学コース・電子情報工学コース
 - ・荒川キャンパス…情報通信工学コース・ソフトウェア工学コース・航空宇宙工学コース・医療福祉工学コース
- ◆ 国立東京工業高等専門学校(八王子市)
 - ・機械工学科・電気工学科・電子工学科・情報工学科・物質工学科など
- ◆ サレジオ高等専門学校(私立・町田市)
 - ・デザイン学科・電気工学科・機械電子工学科・情報工学科など

3. 専修学校・各種学校

(1) 高等専修学校

専修学校は、一定の基準にそって教育課程を編成し、認可を受けたもので、多くは社会に出て仕事をするために必要な技術や知識の習得を目標とした学校です。すべて私立で、1年制、2年制、3年制と修業年限が異なります。卒業時には職業資格や各種免許・国家試験受験資格等が取得できます。中学卒業で入学できるのは高等課程です。最近では、専修学校の高等課程でも大学の受験資格が取得できる学校や、通信制の高校と提携し、同時に入学することで高校卒業の資格を得られる学校(技能連携校)もあります。※技能連携が必修の場合、連携先の検定料や授業料がかかります。

募集は11月頃から2月頃にかけて何回かに分けて行うところが多く、選考は、面接と書類審査による学校が主ですが、学科試験を行なう学校もあります。一部の学校では、高等学校と併願する者のことを考えて、公立高校・私立高校の合格発表まで入学手続を待つところもあります。

<大学受験資格や高卒資格が与えられる高等専修学校の例>

学校名	科	地区	大学入学資格付与指定校/提携
野田鎌田学園杉並高等専修学校	調理高等科・情報高等科	杉並区	指定校 / あずさ第一高校
武蔵野東高等専修学校	総合キャリア学科	武蔵野市	指定校
東放学園高等専修学校	芸術科	新宿区	指定校
日本芸術高等学園	演劇・音楽科	国分寺市	指定校
国際製菓専門学校高等課程	製菓衛生師科	立川市	指定校 / 東海大望星高校
東京多摩調理製菓専門学校	調理師科	多摩市	指定校 / 向陽台高校
大竹高等専修学校	美容師科・調理師科	八王子市	指定校

(2)各種学校

各種学校は、一般に学歴や年齢などに関係なく入学できます。各種学校には様々なものがあり、いずれも専門の知識や技術の習得を目的としています。入学にあたっては、内容等をしっかり調べる必要があります。

(3)サポート校・広域通信制高等学校

サポート校は、通信制高等学校卒業や高等学校卒業程度認定試験（旧・大学入学試験検定）合格のための学習をサポートする施設です。通信制の高等学校に同時に入学し、普通の高等学校と似た学習や生活しながら、高校の卒業資格を取得させる学校もあります。

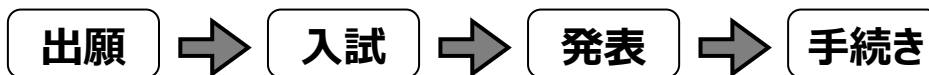
広域通信制高等学校は、通信制高等学校系列の学習センターでの学習を通じて、通信制高校の卒業資格を得る施設です。

5 高等学校の入試制度について

現在(令和5年度・2023年度)の中学3年生が、令和6年度の4月に高校進学する入試なので、「令和6年度入試・2024年度入試」と言います。

入試のことを、都立高校は学力検査を行うので**受検**、私立高校は入学試験を行うので**受験**といいます。

1. 入試の基本的な流れ



2. 都立高校

(1) 令和6年度東京都立高等学校入学者選抜の日程（令和5年5月25日 HPに公表）

【推薦に基づく選抜】

出願受付期間	令和6年 1月12日（金曜日）～令和6年18日（木曜日）
学力検査実施日	令和6年 1月26日（金曜日）・27日（土曜日）
合格発表日	令和6年 2月 2日（金曜日）

(注1) 都立国際高校における国際バカロレアコースの入学者選抜についても上記日程で実施する。ただし、入学願書は学校へ持参することとし、出願受付期間は1月23日（火）及び24日（水）とする。

(注2) インターネットを活用した出願に係る出願受付期間等については、別途定める（令和5年度入試では、志願者情報登録期間は令和4年12月20日(火)～令和5年1月18日(水)）。以下、学力検査に基づく選抜のうち、第一次募集及び分割前期募集及び海外帰国生徒対象の選抜についても同様とする。

【学力検査に基づく選抜】

第一次募集及び分割前期募集（注3）

出願受付期間	令和6年1月31日（水曜日）～2月6日（火曜日）
学力検査実施日	令和6年2月21日（水曜日）
合格発表日	令和6年3月1日（金曜日）

分割後期募集及び全日制第二次募集（注3、4、5） ※入学願書は窓口への持参により受付

願書受付日	令和6年3月6日（水曜日）
実施日	令和6年3月9日（土曜日）
合格発表日	令和6年3月14日（木曜日）

※インターネットを活用した出願に係る出願受付期間は、令和5年度入試では令和4年12月20日(火)～令和5年1月18日(水)。

定時制第二次募集（注4） ※入学願書は窓口への持参により受付

入学願書受付日	令和6年3月21日（木曜日）
実施日	令和6年3月26日（火曜日）
合格発表日	令和6年3月27日（水曜日）

（注3） 分割募集：定員を前期と後期に分割し、2回に分けて行う募集

（注4） 第二次募集：第一次募集で欠員のある学校が行う欠員補充の募集

（注5） インフルエンザ等学校感染症罹患者等に対する追検査は、(2)分割後期募集及び全日制第二次募集の日程で実施する。

（2）推薦に基づく入試(推薦入試)

- ① 一般推薦と文化・スポーツ等特別推薦、理数特別推薦があります。
- ② 第1志望であることが条件です。合格した場合、必ず進学する学校となります。
- ③ 推薦枠上限は普通科20%、専門学科30%。ただし、学校によって異なる。
- ④ 選考：以下の各得点を総合して合格者を決めます。

- ▶ 検査は、集団討論・個人面接・小論文または作文・実技検査、その他学校が設定する検査を組み合わせ実施します。集団討論と個人面接は、原則として全ての学校で実施します。また、小論文又は作文、実技検査、その他の学校が設定する検査は、それらの中から各学校が1つ以上選んで実施します。
- ▶ 集団討論と個人面接、小論文または作文、実技検査、その他学校が設定する検査の内容については、各学校で定めます。
- ▶ 選考は、調査書点のほか、集団討論及び個人面接、小論文または作文、実技検査、その他学校が設定する検査の各点数を総合した成績で行います。
- ▶ 出願には、出身中学校よりの**推薦書・調査書**が必要です。
- ▶ 推薦基準・推薦枠・推薦試験の内容は各高等学校に任されています。
- ▶ 調査書における必修教科の観点別学習状況の評価（全27観点）又は評定（9教科）のどちらか一つを調査書点として点数化します。
- ▶ 自己PRカードは点数化しませんが、面接資料として入試の合格判定資料の一部として活用されます。志望校に最も伝えたいことを記入し提出します。面接を実施しない学校は、入学手続き後に入学予定の学校へ提出します。

※令和5年度東京都立高等学校入学者選抜等における新型コロナウイルス感染症等への対応（令和6年度は未定）

- ▶ **集団討論は実施しない。**
- ▶ 文化・スポーツ等特別推薦の基準に、大会の実績や、資格・検定試験等の成績に関わる内容を含めず、「**実績等を証明する書類等の写し**」の提出も求めない。

（3）学力検査に基づく入試（第一次募集・第二次募集・分割募集）

- ① 都内全域通学可能であれば、受検することができます。
- ② 学力検査に基づく入試では、第一次募集の結果、入学手続き人員が募集人員に達しない学校が、第二次募集を行います。また、都立高校には、あらかじめ募集人員を分割し、第一次募集期間における募集（分割前期募集と第二次募集期間における募集（分割後期募集）の2回に分けて募集を行う学校があります。
- ③ 選考は、学力検査の得点および調査書点の他、面接、小論文または作文、実技検査を実施する学校では、これらの点数を総合した成績で行います。

※1次募集は5教科(国・数・英・社・理)、2次募集は3教科(国・数・英)です。

※令和5年度東京都立高等学校入学者選抜等における新型コロナウイルス感染症等への対応(令和6年度は未定)

- ▶ 第一次募集において、検査間の休憩時間を30分とする(学力検査を行わない学校を除く)。
- ▶ 合格者の発表は、合格者の受検番号を校内に掲示することに加え、ウェブサイトへの掲載も実施する。

※全日制高校のうち以下の10校では、学力検査問題を自校で作成します。これらの学校については、自校で作成した問題(国語、数学、英語)と都立高校共通問題(社会、理科)で学力検査を実施します。

<学力検査の自校作成を実施する学校> (令和5年度入試)

日比谷高校、戸山高校、青山高校、西高校、八王子東高校、立川高校、国立高校、新宿高校、墨田川高校、国分寺高校

※国際高校は英語のみ自校作成。また、一部の定時制高校でも自校作成を実施。

④ 総合成績の出し方

全日制課程(学力検査と調査書の比重は原則7:3)の場合の総合成績			
総合得点(1020点満点)			
1000点		20点	
学力検査点	調査書点	ESAT-J結果	面接・実技点
自分のとった入試の得点を700点満点に換算。	自分の内申を65点満点に換算し、それをさらに300点満点に換算する。	英語スピーキングテスト[EAST-J]の結果(A~Fの6段階評価)を20点満点で点数化。 A=20点 B=16点 C=12点 D= 8点 E= 4点 F= 0点	実施する学校のみ。 面接点は各学校により異なる。

※学力検査点と調査書点に英語スピーキングテスト[EAST-J]の結果を加えて、**1020点**満点としたものを総合得点といいます。この総合得点に、面接・実技点を加えたものを総合成績といいます。

※調査書点は、学力検査を5教科実施した場合に、学力検査を実施しない4教科について評定を2倍して点数化します。学力検査を3教科実施した場合は、学力検査を実施しない6教科について評定は2倍されます。

項目	昨年 令和5年度入試	
学力検査	全日制 一次・前期→5教科 二次・後期→3教科 ※面接・小論文(作文)・実技検査は学校により実施	定時制 一次・前期→3教科~5教科で実施 二次・後期→3教科 ※面接は全校で実施。小論文(作文)・実技検査は学校により実施
比率	全日制 学力検査の得点:調査書点 一次・前期→「7:3」 二次・後期→「6:4」	定時制 学力検査の得点:調査書点 一次・前期→「7:3」又は「6:4」 二次・後期→「6:4」又は「5:5」
換算内申	*5教科受検の場合 学力検査を実施しない実技4教科の評定を2倍する。 →換算内申の満点は (5×5科) + (5×4科) × 2 = 65 国,数,英,社,理 音,美,体,技家 ※比率が「7:3」の場合、この65点満点を300点に換算します。	

※特定の教科の得点に決められた倍率をかけて、配点を多くする「傾斜配点」を実施する学校もあります。

※エンカレッジスクール(例 東村山高校、秋留台高校、中野工科高校など)は学力検査を実施しません。
チャレンジスクール(例 世田谷泉、八王子拓真チャレンジ枠など)は学力検査と調査書を用いない選抜方式で行います。

※分割募集は、あらかじめ定員を2つに分けて募集します。また、募集で定員に満たなかった学校のみ第二次募集を行います。

※自己PRカードは、面接を行う学校では出願時に提出し面接資料となります。面接を行わない学校は入学手続き後に提出します。

※解答はマークシート方式…共通問題を使用して学力検査を実施する全ての学校で「マークシート方式」による入試を実施しています。記号による解答部分のみマークシート方式で、国語や英語の作文、社会や理科での説明や作図などの出題は、記述方式です。

- ⑤ 志願の変更：全日制は出願後、1回に限り志願の変更をすることができます。変更は、異なる学科・コース間でも可能ですが、一部制限があります。また、取り下げた学校に再提出することはできません。

(4) 海外帰国生徒対象入試

海外帰国生徒対象の選抜を実施する都立高校は、三田高校、竹早高校、日野台高校、国際高校の4校です。出願の資格は在住期間によって区分されます。

- ① 2年以上3年未満 … 入学日までに、帰国後1年以内
- ② 3年以上4年未満 … 入学日までに、帰国後2年以内
- ③ 4年以上 …………… 入学日までに、帰国後3年以内

2. 私立高校

(1) 私立高校の入試制度

大きく分けると、「推薦制度を採用している」と「採用していない（一般受験のみ）」の2つです。そして「推薦制度を採用している」学校の多くで「推薦」制度と「併願優遇（第二志望）」を採用しています。

推薦入試（1月）	一般入試（2月）		
	併願優遇（第2志望）	第1志望	フリー受験
推薦基準をクリアしている。 事前の入試相談が必要。	併願優遇の基準をクリアしている。 事前の入試相談が必要。	第1志望基準をクリアしている。 事前の入試相談が必要。	基準はない。

(2) 推薦入試

① 出願資格(条件)

第1志望であること、合格したら必ず入学することが条件です。1月中旬に合格が決りますが合格後の変更はできないので、よく考えて希望してください。

② 推薦基準

多くの学校が、成績等の推薦の基準を設けています。推薦の基準は要綱等に明記されることになっています。一部の私立学校では、特定の地域を対象に、基準の一部優遇をしているところもあります。詳しくは該当校に問い合わせをしてください。主な基準は次の通りです。

<p>ア. 推薦にふさわしい人物であり、校長の推薦を受けられること。</p> <p>イ. 成績の基準は、調査書の評定の得点です。(私立の場合は<u>評定を単純に合計</u>します)9科計、5科計、3科計など様々です。また、特定の教科が一定の成績以上であること。また、評価に1や2がないことなども条件となる場合があります。</p> <p>ウ. 大部分の学校が<u>出欠や遅刻回数</u>の条件を定めています(例 3年間で10日以内や、3年時の出欠席が評価(加点)されるなど)。ただ、正当な理由のある場合(入院等)は考慮されます。</p> <p>エ. 生徒会活動や部活動、一定の資格(英検、漢検、数検など)などが、評価される場合もあります。</p> <p>オ. スポーツ推薦の場合、運動技能やそのスポーツでの実績(大会等)が重要な条件となります。実績は通常、都大会出場以上の実績・技能が要求される場合が多いです。一部の学校では、部活動の体験や見学の誘いが来始めているので、関心のある方は該当する高校の情報を集めてください。通常は、高校入学後の3年間そのスポーツを続けることが条件です。</p>
--

③ 入試日程

- 入試日… 1月中旬
- 入学手続き…合格発表後2～3日以内 ※費用の延納は認められません。

④ 合否の判定

中学校からの調査書、推薦書と面接、作文等の結果を総合的に判断して決定します。

⑤ 指定校推薦について

昨年度は本校で指定校推薦枠を2校設けていました。

- 明治大学付属明治高等学校
- 大成高等学校

(3) 一般入試

① 受験資格

- ▶ 男女別以外は、原則として誰でも受験できます。

② 一般受験にも「入試相談」を通すものとそうでないものがあります。

③ 入試日程(例年)

- ▶ 願書受付期間は1月25日(昨年度)以降に任意に各学校が決めます。入試日は各学校が任意に定めていますが、東京都は例年2月10日からです。 ※複数校を受験する場合には、日程をよく調べてください。

④ 入試科目

- ▶ 国・数・英の3教科の学校が多いですが、5教科や2教科、指定された教科から選択する学校もあります。
- ▶ 大部分の学校が面接を行ないます。面接は本人のみやグループ面接の場合がほとんどですが、保護者同伴で面接を行なう学校もあります。

⑤ 合否の判定

- ▶ 調査書・学力テスト・面接の結果を総合的に判断して行なわれますが、多くの学校が、学力テストの結果を重視しています。
- ▶ **推薦入試と一般入試と募集人員を分けて発表されていますが、推薦入試の応募者が多い場合は、一般入試の受験生は合格が厳しくなります。**

⑥ 合格発表と手続き

- ▶ 合格発表は入試日から1～3日後位に行なわれます。
- ▶ 手続きは合格発表後2～3日中の場合が多いですが、公立高校を第1志望としている場合は、公立高校の発表まで手続きを待つ学校(延納制度)もあります。各学校によって対応が異なるので注意が必要です。入試要項等で確認してください。

(4) 一般入試における **第1志望優遇(単願)** ・ **第2志望優遇(併願)**

- ▶ 第1志望優遇は、合格したら必ず入学すること、第2志望優遇は、第1志望が不合格の場合、原則として入学することが条件です。公立高校に限定する学校や他の私立高校でも認める学校があるので、入試要項で確認したり、学校説明会に参加する等、事前によく調べるのが大切です。
- ▶ 推薦入試と同様に、成績(内申点)等の基準があります。第2志望のほうが一般的に基準は高くなっています。この制度を利用して私立高校を受ける生徒が多くいます。
- ▶ 一般の受験生と同様に受験しますが、一定の優遇措置があります。ほぼ、確実に合格できる場合や、当日の得点に一定の点数を加点する場合などがあります。
- ▶ 第1志望優遇の場合は、費用の延納はできません。

(5) 入試相談

- ▶ 推薦や第1志望・第2志望優遇を希望する生徒について、事前に高校側と相談をします。中学側から受験希望者を提示し、高校側は受験の可否や合格の可能性を提示します。
- ▶ 入試相談は、例年**12月15日から**で、多くは年内に締め切られます。
- ▶ 入試相談で、受験の希望を提示しないと、推薦入試や優遇が受けられないのが通常です。
- ▶ 入試相談を利用する受験を考えているご家庭は、11月の第2回目の三者面談の頃には具体的な検討と取り組みが必要になり、12月の三者面談で受験の意思決定をすることになります。
- ▶ 「併願優遇」での入試を考えている場合も、説明会・相談会などに原則参加が必要になります。(学校説明会に参加していること、体験入学に出席していることなどを条件にする高校がほとんどです。)各私立高校の入試要項で確認してください。

3. 国立高校

ほとんどが一般入試のみですが、東京工業大学附属科学技術高校には30%の推薦枠があります。

6 奨学金制度について

現在、交通遺児育英会、あしなが育英会、財団法人東京都私学財団(東京教育英資金)の3つの団体より、案内が来ています。団体によって締め切りが異なるので、随時お問い合わせください。詳しい内容については、資料「奨学金・貸付金等のご紹介」を参照の上、各団体のホームページをご覧ください。

- 交通遺児育英会 <https://www.kotsuiji.com/>
- あしなが育英会 <https://www.ashinaga.org>
- 財団法人東京都私学財団 <https://www.shigaku-tokyo.or.jp>

(進路だよりでもホームページのQRコードをお知らせしております。)

- その他
- 生活福祉資金貸付制度 教育支援資金制度
 - 受験生チャレンジ支援貸付金制度 問い合わせ：三鷹市社会福祉協議会 0422-46-1108
 - 高校入学後に各高校からも奨学金制度についての紹介があります

私立高校(全日制・定時制)の授業料負担が軽減されます!
 最大475,000円(※)

年収目安 910万円未満

年100,000円

一般財団法人 東京私立中学高等学校協会

私立高校(都認可通信制)の授業料負担が軽減されます!
 最大265,000円(※)

年収目安 910万円未満

年100,000円

一般財団法人 東京私立中学高等学校協会

私立中学生の教育費負担が軽減されます!
 (東京都在住者対象)

年収目安 910万円未満

年100,000円

一般財団法人 東京私立中学高等学校協会

7 進路決定へ向けてのポイント

1. 自分にとってのよい学校

よい学校 ≠ 入試のレベルの高い学校 → レベルの高い中で競い合うこともできるがついていけずに退学パターンも…

よい学校 = 自分に合った学校 → 3年間、充実した生活を送れる学校

ただ単に、学力が高いとか、有名だからとか、一面的なとらえ方をしないで、本当に自分の目的にあった進路先はどこなのか、どこなら自分のやりたいこと、自分の理想とする高校生活を送れるのか、本当に自分の力を伸ばして、将来に結びつけていける進路先はどこなのか、などの広い視野を持って考えていくことが大切です。

2. 学校選びのポイント

(1) 進路の選択は、現在の自分自身を正直に見つめる

進路決定にあたっては家族や教師、先輩や友達のなどのいろいろな人の意見を参考にし、テストの結果などの学力面、興味や関心、性格や経験などを十分に把握し、自分についてじっくりとまとめてみる必要があります。

- 現在の学力
- 自分の性格
- 体力や健康状態
- 家庭の状況
- 将来の見通し(社会人としてどのような道をめざすのか、興味のある分野は何か、そのためにどのような道筋で学んでいくのか)

(2) どんな視点で志望校を選んだらよいか

社会人としての自立する将来のことを考え、数年先の自分の生活をイメージしながら、どんな進路が望ましいか考えましょう。

- 教育方針が本人の性格や希望にあっているか
- 学校の形態(男子校・女子校・共学校)はどうか
- 自分にあった科やコースがあるか
- クラブ(部)活動や学校行事は活発か
- 校則や生活指導は、本人の性格にあっているか
- 環境や設備はどうか
- 通学時間に無理はないか
- 費用に無理はないか
- 学力レベルはどうか

これらのことを自ら振り返り、そして家族や先生との話し合いの中でアドバイスを受け、徐々に具体的な進路を考えていきましょう。進路先でどのように自分を生かしていくのか、伸ばしていくのかをよく考え、目標を定めて努力し、最終的には自らの判断で決定することが大切です。自分で選んでこそ、進路先での様々な苦難があっても乗り越えられる力となり、自信を身につけていけるのです。

(3) 自分で学校を調べ、実際に見て選びましょう

「百聞は一見に如かず」です。実際に学校を訪問し、見て、体験してみましょう。上級学校にしても就職にしても、自分の目で見ることはとても大切なことです。パンフレットや本に出ていることは、いわば宣伝文句。その学校の良いイメージだけかもしれません。1学期から夏休み、2学期にかけて、多くの学校で体験入学・見学会・説明会などが開催されています。積極的に参加し、自分の目と耳で学校の様子をつかむことが大切です。周囲のあいまいな噂に振り回されずに、各学校の特徴や入試制度について正しい情報を得るようにしてください。直接学校まで行くと、受験ガイドには載っていない「生の情報」が手に入ります。また、9月からは、多くの上級学校で文化祭や体育祭が実施されます。昨年度までは感染症対策で一般公開しないケースや制限がある場合もありましたが、今年度はかなり緩和されています。一般公開している学校については、この機会をどんどん利用して訪問しましょう。また、具体的に志望校が決まっている場合は、ホームページや電話による問い合わせなどで、自分で調べてみましょう。大切な3年間を過ごす場所を決めるのですから、必ず一度は足を運び、自分の目で確かめることが大事です。**インターネットや廊下の進路情報を見て、申し込み方法を確認し、早めに準備しておきましょう。定員に限りがある体験や見学会等もありますので十分注意してください。**

学校については、以下の方法で調べることができます。

- 「高校案内」の書物を利用する(店等で数多く売られています)。「2024年度入試」「令和6年度入試」という表示のものです。
- 兄弟姉妹や親戚、あるいは近所の先輩などに話を聞く。
- 実際にいくつかの高校などを訪問してみる。休み中でも、事前に連絡しておけば校内を案内してくれたり、説明をしてくれたりするところもあります。
- ホームページなどで新しい情報をいち早く得る。
 - ▶ 都立高校 http://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/static/high_school/index.html
 - ▶ 私立高校 <http://www.tokyoshigaku.com>

自分からどんどん、見学に行きましょう。

(4) 第2, 第3希望も真剣に考えましょう

進路は生徒・保護者の意思だけでは決定しません。「だれを受け入れるか」は上級学校側が決めることです。東京都では子どもの数は年々減少傾向にあります。高校全体の募集人員が数年前のままならば、希望者全員を受け入れることも可能ですが、実際には受け入れ枠は生徒数の減少に合わせて削減されています。また、私立高校においては将来的な生徒数の減少に備えて、中学校での募集枠の拡大や高校での募集枠の削減を行うところが増えています。高校での募集をまったく行わなくなった学校もあります。生徒数が減ったからと言って、必ずしも入試の状況がよくなったとは言えません。

進路を考える際には、「ここがダメだったら、次はここ」というように、納得ができる第2, 第3希望の学校を考えておくことが大切です。

3. 進路決定への主な流れ(進学を前提として)

(1) 到達度テスト

① 目的

- 1・2年の範囲も含めた学習の目標とし、学習に意欲的に取り組めるようにする。
- 学習内容をどれだけ身につけているかを自覚し、今後の学習計画や進路の選択の参考資料とする。

② 教科…国語・数学・英語・社会・理科の5教科

③ 実施回数…3回(6月26日、8月31日、10月20日の予定)

④ 範囲…1・2年の総合問題+3年の学習したところまで

⑤ 結果の利用…学習の目標と確認が目的であり、面談の際の参考資料として活用します。結果を評定の資料としては使用しません。返却された答案で学習の状況や不十分なところを確認し、学習に役立ててください。

(2) 進路希望調査

① 第1回 6月(第1回面談:夏季休業中の三者面談の資料)

具体的な学校名よりも、現在考えている進路の方向性(都立・私立・学科など)や、前述の学校選びのポイントについて、自分が何を重視して学校選びをするのか、しっかり考える機会としてください。

② 第2回 9月

この調査では、学校選びのポイントなどと、夏休み中の学習状況、第1回到達度テストなどを踏まえて、自分の志望校としたい学校を具体的にいくつか挙げられるようにしてください。そのために、夏休み中に各自で各進路先について調べたり、親子で話し合ったりする機会をもつようにしてください。

③ 第3回 10月(第2回三者面談の資料)

第2回到達度テストや進路先訪問などをもとにして、具体的な志望校をしぼり込みます。都立中心か私立中心か、普通科か専門学科かはもちろん、受験日や推薦制度の利用などについても、具体的に考えておく必要があります。

※主な受験(検)パターン

	第1志望	第2志望
パターン1	都立(推薦/一次・前期)	都立(二次・後期)
パターン2	都立(推薦/一次・前期)	私立(併願優遇利用)
パターン3	私立(推薦/単願優遇利用)	
パターン4	私立(公募推薦・一般入試)	私立(一般・併願優遇利用)
パターン5	私立(公募推薦・一般入試)	都立(一次・前期)

※2学期には多くの学校が体育祭や文化祭を予定しており、中学生の参観も可能なところが多くあります。また、保護者や生徒対象の学校説明会を開くところも多くあります。これらの機会を利用して、志望校の候補に考えている学校について、より深く知る機会とすると良いでしょう。

④ 第4回 11月(第3回面談の資料)

志望校の最終確認になります。私立推薦、優遇制度利用については、最終的な希望になります。**私立の入試相談を希望するご家庭は、面談後速やかに「推薦または併願優遇願い」と、より細かい確認事項(受験日やコース名、利用する制度など)を提出することが必要となります。**

(3) 三者面談 ※面談期間以外でも、必要に応じて面談したり相談に応じます。

① 7月21日～31日(土日を除く)

1学期のようすと進路についての面談となります。第1回進路希望調査や到達度テストの結果などを参考にして、夏休みの学習の進め方を確認したり、志望校決定への見通しについて伺います。

② 10月30日～11月7日(土日を除く)

第3回進路希望調査や到達度テストの結果などをもとに、志望校最終決定に向けての面談となります。基本的な受験パターンや、私立推薦や優遇制度利用の希望も伺います。

③ 12月4日～11日(土日を除く)

第4回進路希望調査や到達度テストの結果などと、本人の希望や学習状況をもとに、志望校の確認をします。私立の推薦や優遇制度を利用する場合は、この面談で確定します。都立推薦についても、インターネットによる出願期間が12月に始まり、都立推薦入試の出願受付期間が3学期開始すぐであることから、冬季休業中に受験の準備が必要になるため、ほぼこの面談で受検校を決定します。私立の一般受験(フリー受験)や都立の一般受検校は、この面談でほぼ見通しを立てます。

4. 学習の進め方

(1) 入試までの学習計画を1学期中に立てる

- 1・2年の総復習・苦手教科の克服
- 3年の範囲も含めた実力養成。問題練習など
- 志望校にあわせた対策、過去問題への挑戦など



いつ頃までに、どんな方法で学習していくか。到達度テストなどを参考に、随時修正しながら進めていきましょう。



- ① 夏休み中は、1・2年の復習と苦手科目克服のチャンスです。まとまった時間がとれるので、何(教材)を使って、いつまでに、どこまで、どのように学習をするか。到達度テストなどを参考にしながら**教科別に具体的に計画**を立てましょう。
- ② 3年生の範囲は、今やっている授業の中でしっかり理解し、定期考査へ向けての学習で実力をつけましょう。定期考査でできなかったところは、すぐに復習して完全に自分のものにしていくこと、これが一番の早道です。授業やテスト勉強をいかにがんばりにしておいて、直前になってから、あわてて復習をするのでは間に合いません。
- ③ **2学期は実力養成**の時期です。3年生の範囲も含めて、問題にどんどんチャレンジしましょう。ただし、できなかったところ、間違えたところをそのままにせず、**理解できるまで考え、できるまで繰り返し問題を解き**ましょう。わかるまで復習をすることが大切です。自分の力だけではわからないところは、学校の先生に積極的に質問し、教えてもらいましょう。遠慮はいりません。
- ④ 志望校が固まってきたら、その学校の過去問題に挑戦するのがよいでしょう。問題の傾向を知り、合格の可能性を探る手がかりにもなります。過去問題は各学校で学校案内などと一緒に売っているところもあります。また、書店でも手に入ります。

(2) 評価・評定(調査書点)の重み

都立高校の入試、私立高校の推薦及び併願優遇では、評価・評定が重視されます。定期テストだけでなく、**授業での取り組み、提出物、実技テスト、作品など、日常の授業や学習にしっかり取り組む**ことが、自分の希望実現への大きな鍵となります。

5. まとめ・確認・その他

- (1) 志望校を決める時には、学力だけにとらわれず、**高校生活への希望や将来の進路などもよく考え、生徒本人の希望を中心にご家庭でもよく話し合い、よく相談してください。**また、担任の先生ともよく相談してください。**担任は、アドバイスはしますが、最後は、生徒本人とご家庭との話し合いで決定してください。**
- (2) **志望する学校は、事前に必ず見学**をしてください。説明会、体育祭、文化祭、体験入学、授業公開、相談会などチャンスはたくさんあります。
- (3) 都立か私立か、普通科か専門学科かなど、どちらを主に考えていくかは、2学期前半までには目処をつけましょう。特に、推薦を考えている場合は早めに情報を集め、担任に相談してください。
- (4) 塾や夏に講習会などを利用する人も多いと思いますが、次の点には注意が必要です。
 - ▷ ただ通っているということで、勉強をしていると錯覚することがないように気をつけましょう。与えられたものだけでなく、自主的に取り組み、自分の力で学習していくことが大切です。
 - ▷ 塾や講習会の学習内容や進度が自分にあっていないか、生活のリズムが乱れていないか。自分にあっていない場合、効果が上がらないだけでなく、かえってマイナスになる場合もあります。
 - ▷ 自分の進路希望と塾等での学習内容が合っているか、自分は都立志望なのに、塾では私立有名校対策クラスでは目的に合っていません。選択する段階でよく検討し、どのような内容に取り組むのかなど予定表を確認して、主体的な判断で決めましょう。友人と一緒にというのも、長所と短所がありますので、よく検討してください。志望先の決定にあたっては、塾などの指導に振り回されない、あくまで**自分の希望を大切に**してください。**「利用はしても利用されない」姿勢が必要**です。
- (5) 場慣れする意味も含めて外部模試等を受験する人も多いと思います。その結果や受験関係の書籍で示される合格の可能性(%)は目安であって、その数値があれば100%合格が保証されるものではありません。
- (6) **スポーツ推薦や文化活動の推薦**は、高い競技レベルもしくは技能レベルが要求されるとともに、**入学後、そのスポーツや文化活動を継続することが条件**になります。
- (7) 推薦は、**三鷹一中の校長が推薦に値する生徒として保障する制度**です。学力だけでなく、行動や服装・生活面でも、しっかりした生活を送ることが大切です。学年当初の進路ガイダンスや保護者会でお示しいただいた**一中の「推薦受験(検)資格の認定について」(P.26)**を読み、確認してください。
- (8) 廊下や教室には、高校等から送られてきたポスターやパンフレット、説明会等のお知らせがあります。日々更新されているので、見落としのないようにしてください。他の人に探してもらって情報を得るのではなく、**自分から見つけていく積極性をもつ**ようにしましょう。

6. 推薦受験(検)資格の認定について

令和5年4月21日

連雀学園三鷹市立第一中学校

推薦受験（検）資格の認定について

1. 学校推薦の趣旨

学校推薦とは、第一に都立・私立高校の選抜試験制度の1つとして、学校長が責任をもって推薦できると認めた生徒に対して推薦状を添えることを条件として、受験（検）資格を与えるものです。第二に、推薦制度を利用する場合、都立・私立を問わず、まず生徒本人が入学したい第一希望の学校であること、入学する意志が強く、学校生活をまじめに取り組んでいることが、推薦の前提条件となります。さらに、各学校が示す学力面をはじめとする推薦基準を満たしていることも必要条件です。

推薦制度は、本校の校長から、当該高校の校長へ推薦するものであり、推薦制度を濫用すれば、今後その高校との信頼関係が崩れ、つながりがなくなるだけでなく、本校の下級生の来年度以降の受験に悪影響を及ぼすことにもなりかねません。制度を利用しようと考えている生徒は、当然、日頃より学校生活を振り返り、本校の目指す生徒としてふさわしい自覚と言動を心がけてほしいことは言うまでもありません。

2. 推薦認定の基準

都立・私立推薦制度の利用希望者は、以下の項目をすべて満たしていることが条件となります。

なお、推薦可・不可の認定については、学校全体で検討し、最終決定は学校長が行います。

- | |
|--|
| <p>① 志望校（学科、コース）に対する興味・関心があり、志望目的が明確でその理由が適切であること。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) <u>志望校を見学している。</u>(2) 志望理由や入学後にやりたいことがはっきりしている。(3) 入学後、卒業まで就学する決意を持っている。(4) 入学後、学習活動だけでなく、生徒会・行事・部活動等に参加し、高等学校卒業までその意欲を継続的することができる。 <p>② 学校生活を健全かつ良好に過ごしていること。（中学校だけでなく高等学校においてもその姿勢が守られる）</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 飲酒、喫煙、万引きなどの<u>法に触れる行為をしていない。</u>(2) 染髪、ピアス、化粧など<u>学校の規律を乱していない。</u>(3) 標準服の異装等、<u>服装の乱れがない。</u>(4) 時間が守れ、遅刻、欠席が少ない。(5) 自分の言動に責任感が伴っている。（当番活動などがきちんと行える。）(6) <u>学校の指導を素直に受け入れることができる。</u>(7) その他、人間関係のトラブルをおこさないなど、学校生活を送る上で問題がない。 <p>③ 学習状況が良好であること</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 忘れ物が少ない。(2) 宿題や提出物に丁寧に取り組んでいる。(3) 学習に対し意欲的であり、授業に真剣に取り組んでいる。 <p>④ ①～③の条件に加えて、<u>高等学校の定める基準を満たしていることが必要となる。</u></p> |
|--|

入試でよく使う用語

換算内申

調査書の各教科の評定の内、一部を換算して総計した数値（満点65）

主に、都立高校の調査書点の計算に用いられる。

素内申

調査書の各教科の評定の数字を総計した数値（満点45）

主に、私立高校の推薦入試や、各種優遇を受ける際に基準として使われる。

推薦基準（優遇基準）

高校側が示す、出願条件となる基準の数値。ほとんどの私立高校では素内申で提示される。学校によっては、諸活動の記録によって加点措置がある。

合格基準

その学校に合格するための学力的な目安となる数値。合格最低点はその年度の受験結果で、これとは異なる。

受験倍率

受験者数÷募集定員数

実際の受験時の倍率。募集定員数と合格者数は必ずしも一致しない。

志願倍率（応募倍率）

志願者（応募者）÷募集定員数

志願（応募）段階での見かけ上の倍率。

適性検査

美術、音楽、体育等の専門的な学科やコースで行う実技試験のことを指していたが、最近の私立推薦入試では、学科に関する小テストの意味合いが強い。

実質倍率

受験者数÷合格者数

受験時の実際の倍率。

併願優遇校

第一志望校に対し、第二志望以下の学校。その学校より上位の志望校に不合格だった場合、進学するという条件で優遇を受ける学校。基本的に1校のみ。

併願校

第一志望校に対し、第二志望以下の学校。入試日程が被らない限り、何校設定してもよい。

公立併願

併願優遇を受ける際の条件として、公立（都立）高校に不合格だった場合に進学することを約束する。他の私立高校は受験できない。

公私併願

併願優遇を受ける際、公立・私立を問わず、その学校よりも上位の志望校に不合格だった場合に進学することを約束する。入試日程が被らなければ、他に何校受験してもよい。